20 ことわざ・故事成語

●ことわざ

ことわざとは？ 生活の中から生まれた、人生に役立つ教えや戒め、生活の知恵を示す言葉。

類・対…似た意味・反対の意味のことわざ

例 石橋を叩いて渡る	丈夫な石橋でも叩いて安全を確かめてから渡るように、用心に用心を重ねること。 類 念には念を入れる　対 当たって砕けろ
例 急がば回れ	時間や手間がかかっても安全で確実な方法をとるほうが、危険な近道よりも、結局は早く目的を達成できるということ。 類 急いてはことをし損じる
例 猿も木から落ちる	木登りが得意な猿でも時には木から落ちるように、その道に長じた人でも時には失敗することがあるということ。 類 弘法にも筆の誤り　類 河童の川流れ
例 ぬかにくぎ	柔らかい糠に釘を打つように、手ごたえがなくて何の役にも立たないこと。効き目がないこと。 類 のれんに腕押し　類 豆腐にかすがい
例 三つ子の魂百まで	幼い頃の性質は、年をとっても変わらないということ。 類 雀百まで踊り忘れず

●故事成語

故事成語とは？ 昔の出来事（故事）をもととして生まれた言葉（成語）。中国の古い書物から生まれたものが多い。

例 一炊の夢	人生の栄枯盛衰がはかないたとえ。 故事 蘆生という貧しい若者が、立身出世して栄華を極めるまでの長い夢を見るが、目が覚めると粟飯も炊けていないほどの短い時間だった。
例 蛍雪の功	苦労して学問に励んだ成果。 故事 灯火用の油が買えないほど貧しくて、蛍の光で勉強した車胤と、雪明かりで勉強した孫康が後に出世した。
例 四面楚歌	まわりを敵に囲まれて、助けがなく孤立する様子。 故事 楚の項羽の軍が、漢の劉邦の軍に包囲された。夜、劉邦は漢の兵士に楚の歌を歌わせた。項羽は楚の民衆の多くが漢に降伏したと思い、孤立感を深めた。
例 助長	無理に力添えをして、逆に害になること。 故事 畑の苗が生長しないので、苗の芯を引っぱって抜いた人がいた。家に帰って「苗の伸びるのを手伝ってやった」と言うので、息子が見に行くと、畑の苗は枯れてしまっていた。
例 推敲	詩や文を作るときに、何度も字句を練り直すこと。 故事 詩人が「僧は敲く月下の門」と「僧は推す月下の門」とどちらがよいかと考えながら夢中で歩いているうちに高官の韓愈の行列にぶつかり捕らわれたが、わけを説明したところ、文豪の韓愈は「敲く」がよいと答えたという。
例 杜撰	文書や仕事などに誤りが多いこと。やり方がいい加減なこと。 故事 宋の時代の詩人杜黙の作品は、詩の原則に合わないものが多く、当時の人が、いい加減なものを〝杜黙がつくったもの〟の意味で「杜撰」といった。
例 蛇足	役に立たないもの。余計な付け足し。 故事 楚の国で、数人が、蛇の画を誰が早く描きあげられるかを、酒を賭けて競った。早く仕上げた一人が、不必要な足を描き足し、酒をもらえなかった。

※辞典などによって、慣用句・ことわざ・故事成語の区別が異なっている場合がある。

確認問題

1 ことわざ **次のことわざの意味を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。**

① 釈迦に説法　② 泣き面に蜂　③ 転ばぬ先の杖
④ 猫に小判　⑤ まかぬ種は生えぬ

ア 不幸や不運が重なること。
イ 価値のあるものでも、その価値がわからない人には役に立たないこと。
ウ 何もしないでよい結果だけを期待しても無駄だということ。

エ　その道を知り尽くしている人に、それを教えようとする愚かさのたとえ。
オ　失敗しないように、前もって準備したり用心したりすること。

①［　　］　②［　　］　③［　　］　④［　　］　⑤［　　］

ポイント　設問のことわざの具体的な様子を想像し、それがたとえている一般的な意味を考え、選択肢と比べて合っているものを選ぶ。

2　ことわざ　「二つのものを同時に手に入れようとして、結局どちらも得られないこと」という意味をもつことわざを次から一つ選び、記号で答えなさい。〈岡山〉

ア　果報は寝て待て　　イ　えびで鯛を釣る
ウ　逃がした魚は大きい　　エ　虻蜂取らず

［　　］

ポイント　ことわざの意味の「二つのもの」「どちらも得られない」を手がかりに、ことわざを選ぶ。

3　ことわざ　次の文の［　　］に当てはまる言葉として最も適切なものを後から一つ選び、記号で答えなさい。〈秋田〉

▪計画が［　　］にならないように確実に実行する。

ア　絵に描いた餅　　イ　立て板に水
ウ　腐っても鯛　　エ　水と油

［　　］

ポイント　「（計画を）確実に実行する」ことは反対の意味になることわざが［　　］に当てはまる。「実行されない→役に立たない」意味のことわざを選ぶ。

4　故事成語　次の文の――線の部分はどのようなことを述べていますか。適切なものを後から一つ選び、記号で答えなさい。〈青森〉

▪もちろん現代人は広い世界を知らない「井の中の蛙」ではいられません。日本とは異なるさまざまな国の人、社会、歴史、地理、文化等を知ることは大変重要です。さらに、世界レベルで活躍することも必要です。

ア　外の世界の知識を吸収し、自分の世界をきわめるべきだということ。
イ　自分の世界にとどまらず、世界の頂点を目ざすべきだということ。
ウ　個々の世界の枠を超えて、世界が均一になるべきだということ。
エ　自分の世界にこもらず、広い世界に目を向けるべきだということ。

［　　］

ポイント　――線の直後が、――線の部分の具体的な言い換えになっていることから考える。

5　故事成語　次の意味を表す故事成語を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

①　弟子が師匠より優れた人になること。
②　古いものから、新しい価値や意義を発見すること。
③　よけいな心配をすること。
④　両者が争っている間に、第三者が利益を得ること。

ア　杞憂　　イ　漁父の利　　ウ　温故知新　　エ　出藍の誉れ

①［　　］　②［　　］　③［　　］　④［　　］

ポイント　故事成語は、もととなった故事を確認しておくと、意味を理解しやすくなる。一つ一つの漢字の意味もヒントになる。イは「漁夫の利」と書くこともある。

6　故事成語　「仲の悪い者どうしが一つの場所に居合わせること、また敵味方が互いに協力し合うこと」の意味で用いられる故事成語を次から一つ選び、記号で答えなさい。〈岡山〉

ア　五十歩百歩　　イ　以心伝心
ウ　背水の陣　　エ　呉越同舟

［　　］

ポイント　アは「五十歩逃げた人が百歩逃げた人を笑ったが、逃げた点では同じである」、ウは「川を背後に戦って勝った」、エは「敵どうしの呉の国と越の国の人が同じ船に乗った」という故事からできた言葉。